

子羊の婚宴の幻

(ヨハネの黙示録19・1〜10)

一、黙示録とは？

ヨハネの黙示録とは、何なのでありましょうか。はっきりしているのは、「聖書」を構成している「一つの書」であることです。では、この書が聖書に加わる前は何だったのでしょうか。ヨハネが、パトモスという、囚人の流刑地に島流しになった時に見た幻を、その後書き留めた書なのでしょうか。否、もっとはっきりした理由がありました。それは、黙示録自身に書いてあります。1章4節に「ヨハネから、アジアにある七つの教会へ」と。すなわち、パウロの手紙と同じく、宛先のはっきりした手紙でした。では、手紙の内容は何だったのでしょうか。1章1節をご覧ください。「イエス・キリストの黙示」とあります。〈黙示〉とは、「啓示」とも訳されますが、その意味は、覆われていたものの覆いが取り除かれることです。すなわち、上からの閃きとしての啓示ではなく、覆いが取り除かれることによつて、「あ、そうだったのか」と目を見張る内容であることです。さらに、1節の続きに「**神はすぐに起さるべきこと**をしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。そしてキリストは、御使いを遣わして、これをしもべヨハネに告げ

られた」とあります。これは、非常に重要です。黙示録が書かれたとき、ヨハネに示されたメッセージは、遠い将来ではなく、**すぐに起さるべきこと**をしもべたちに示すためでした。このことはばくり返されますから、ほぼ確実にす(1・3b、22・6c、22・10)。さらに、黙示録は預言のことばでもありません。1章3節に「この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである」とあるからです。

要は、黙示録が聖書に組み入れられる前の姿は、七つの教会に宛てて書かれた手紙であり、内容は、すぐに起さる神のさばきであり、イエス・キリストが御使いをおしてヨハネに告げた預言のことばでした。では、だれに対するさばきだったのでしょうか。ヨハネと、手紙の受取人である七つの教会が思い描いたのは、ローマ帝国でした。ですが、「ローマ帝国」という言葉は使えませんが、当然です。そこで、「バビロン」という言葉を用いました。「バビロン」は、キリスト教会の中でローマ帝国を指す隠語として使われていました。あるいは、ローマ皇帝を指す隠語として、数字の「六百六十六」を用いました。

二、大群衆の大きな声

19章1節、2節をご覧ください。「その後、私は、大群衆の大きな声のような

ものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。神のさばきは真実で正しいからである。神は、淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。」とあります。ヨハネは、天において語られる、大群衆のような大きな声を聞きました。それは、「ハレルヤ」に始まる神を賛美する声でした。なぜ、天において賛美がわき起こったのでしょうか。大バビロンが倒れたからです。神に敵対し、キリストに敵対する勢力が減んだからです。ですが、ヨハネが手紙を書き、七つの教会が手紙を受け取ったとき、現実においてローマ帝国は堅固でした。ローマ帝国がすぐに滅びるなどとは、考えも及ばないことでした。

ちなみに、黙示録が語る大バビロンをローマ帝国に結び付けようとはしますと、実際の歴史と合わなくなりませぬ。黙示録が書かれたのが紀元1世紀末のドミティアヌス帝の時代であったとすると、その後200年以上も教会に対する迫害が続く、さらには、313年にローマ皇帝コンスタンティヌス1世はミラノ勅令を出し、キリスト教を公認したからです。そういうわけで、「聖書の預言」を、将来を予測することばとしての「予言」と受け止めますと、合わなくなってしまう。私は、大バビロンがすぐに倒れるとの預言のことばは、すべての

時代における神の御意思であると受け止めています。

三、子羊の婚宴

ヨハネは幻の内に、さらに大きな声を聞きました。6節から8節をご覧ください。「また私は、大群衆の声のような、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のようなものがこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。私たちの神である主、全能者が王となられた。私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。子羊の婚礼の時が来て、花嫁は用意ができたのだから。花嫁は、輝くきよい亜麻布をまとってください。許された。その亜麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」なぜ、どよめき

が起きたのでしょうか。屠られた子羊であるキリストと、キリストの花嫁である教会との婚宴が始まるからです。キリストを信じて生きるとは、厳しい道でもありますが、これを御霊の助けの中で続けて行くなら、やがて、キリストが再臨された時に、輝くきよい亜麻布をまとって、婚宴に臨むことになる。そして、「世」という、神を畏れないで、自分を柱として生きて行くこの世の生き方に勝利することになります。そういう人からは、尽きることはないのちと平安が流れ出ます。その人はだれでしょうか。私たち、イエス・キリストを信じて神を礼拝する者であると受け止めてけっこうです。